



令和6年

 **和歌山県立医科大学**

医学部案内



本学の教育理念

和歌山県立医科大学は、医学、保健看護学及び薬学に関する基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材を育成することにより、和歌山県の医療・保健の充実を図り、もって文化の進展と人類の健康福祉の向上に寄与する。

沿革

昭和20年 2月 ●和歌山県立医学専門学校設置認可(4年制、美園)
 昭和22年 6月 ●和歌山県立医科大学予科設置認可(3年制)
 昭和23年 2月 ●和歌山県立医科大学設置認可(旧医科大学4年制)
 昭和25年 3月 ●和歌山県立理科短期大学併設認可(2年制)
 昭和26年 3月 ●和歌山県立医学専門学校及び予科閉校
 昭和27年 2月 ●学制改革による和歌山県立医科大学設置認可
 昭和30年 1月 ●和歌山県立医科大学進学課程設置認可
 昭和30年 3月 ●和歌山県立理科短期大学閉校
 昭和30年 4月 ●和歌山県立医科大学開校(新制6年制、40名)
 昭和33年 7月 ●学位規程の制定認可(学位審査権)
 昭和35年 3月 ●和歌山県立医科大学大学院設置認可
 昭和36年 3月 ●旧制和歌山県立医科大学廃止
 昭和38年 4月 ●大学本部及び基礎医学部門移転認可(九番丁)
 昭和39年 1月 ●学生定員60名へ変更承認
 昭和40年 4月 ●進学課程移転(紀伊)
 平成 7年12月 ●看護短期大学部併設(3年制)

平成11年 5月 ●和歌山県立医科大学統合移転完成(紀三井寺)
 平成11年 9月 ●生涯研修・地域医療センター開所
 平成12年 6月 ●救命救急センター設置
 平成15年 1月 ●ドクターヘリ導入
 平成16年 4月 ●保健看護学部開設
 平成17年 4月 ●大学院医学研究科修士課程開設・博士課程再編
 平成18年 4月 ●公立大学法人和歌山県立医科大学に組織改編
 平成18年 8月 ●文部科学省の「特色GP」、「現代GP」に同時選定
 平成19年 8月 ●文部科学省の「学生支援GP」に選定
 平成19年10月 ●医学部定員85名届出受理
 平成20年 4月 ●大学院保健看護学研究科及び助産学専攻科開設
 平成20年10月 ●医学部定員95名届出受理
 平成21年11月 ●医学部定員100名届出受理
 平成25年 4月 ●大学院保健看護学研究科博士後期課程開設
 令和 3年 4月 ●薬学部開設

- 1 ページ ————— 教育理念・沿革
- 2 ページ ————— 教育目標・3つのポリシー
- 3 ページ ————— 学長あいさつ
- 4 ページ ————— 医学部長あいさつ
- 5 ページ ————— 医学部の特徴・カリキュラム概要
- 6 ページ ————— 入試概要
- 7 ページ ————— 県民医療枠について
- 8 ページ ————— 地域医療枠について

- 9～12 ページ ————— 教育内容
- 13 ページ ————— キャンパスマップ
- 14 ページ ————— 課外活動
- 15 ページ ————— 年間スケジュール
- 16 ページ ————— 入学金・授業料・奨学金など
- 17 ページ ————— 国際交流
- 18 ページ ————— 学生募集要項



医学部の教育目標

医学部教育においては、幅広い教養、豊かな思考力と創造性を涵養し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材、高度で専門的かつ総合的な医学的能力を身につけた人材、コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人材、地域医療及び健康福祉の向上に寄与するとともに、国際的にも活躍できる人材を育成することを目標とする。

医学部の3つのポリシー

■ アドミッションポリシー（入学者受入方針）

【求める人物像】

和歌山県立医科大学医学部では大学の理念に基づき次のような人を求めています。

- 科学的探求心と豊かな人間性・高邁な倫理観を有する人
医学を志す人には、旺盛な科学的探求心とともに豊かな人間性、高い倫理観が必要です。人としての豊かな感性、人間性を有し、ボランティア活動などを通じて社会との深い係わりがあるとともに、高い倫理観を有する人を求めます。
- 医学を修得するための幅広い能力を有する人
医学の修得には、自然科学のほか人文・社会科学に関する学問の修得が必要です。自然及び人間・社会についての幅広い知識と向学心、自分自身で問題を解決できる能力を持った人を求めます。
- コミュニケーション能力及びリーダーシップを備えた協調性の高い人
医師には医学的知識とともに患者および家族、職場の同僚と十分コミュニケーションできる能力（情報の共有と良好な患者－医師関係が築ける能力）が必要です。医療人として自己研鑽ができ、自己の理念を持っているとともに協調性に優れ、リーダーシップを発揮できる人を求めます。
- 地域医療に関心があり、国際的視野を有する人
本学は県民の医療を支えるとともに、国際的にも活躍できる医師を育成します。
地域医療に関心があるとともに、国際社会でも活躍できるための能力を高め、積極的に地域社会および国際社会に貢献できる人を求めます。

【入学者選抜の基本方針】

- 学校推薦型選抜
学業のみならず、課外活動等において特に優れた成績あるいは実績を有する者で、医学・医療に貢献したいという強い意欲があり、人格的に特に優れた学生を求めています。
大学入学共通テスト、高等学校長の推薦書、調査書、自己推薦書及び面接試験を課し、本学医学部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、入学者に求める能力・適正を「学力の3要素」と関連付け、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。
- 一般選抜（前期日程）
高い学力を有する者で、医学・医療に貢献したいという強い意欲があり、人格的に特に優れた学生を求めています。
大学入学共通テスト、個別学力検査及び面接試験を課し、本学医学部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえ、入学者に求める能力・適正やその評価方法を「学力の3要素」と関連付け、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

■ カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

- 教育課程編成
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識と能力を修得するために、教養、基礎医学、臨床医学に関する体系的で組織的な教育を提供します。知識に偏重した旧来型の教育ではなく、学修成果基盤型教育を行います。
- 教育内容・方法
 - 1年次は教養教育が中心となります。医学への準備教育や自然科学、人文・社会科学および外国語に関する知識、医師としての倫理を学びます。また、入学後早い時期に医療の現場を体験する早期臨床体験実習や、3学部合同で患者の生の声を聞き、学生同士で意見交換し、その内容を発表するケアマインド教育などで、能動的学習やコミュニケーション能力の獲得を目指します。
 - 1年次後半から臨床の基礎となる基礎医学の領域を中心として学びます。肉眼解剖から遺伝子レベルに至る人体の構造と機能を学び、さらに病気の病態、病因、薬物の作用、および社会と疾病の関わりについても学びます。
 - 3年次を行う基礎配属では、自分の興味のあるテーマを選び、基礎医学講座（社会医学系講座を含む）・先端医学研究所研究部・共同利用施設・人体病理学講座の研究室で実際の研究に触れます。大学院準備課程（M.D.-Ph.Dコース）で自身の研究を継続することもできます。
 - 3年次後半から4年次終了まで学ぶ臨床医学では基礎医学・社会医学との連携を図り、臓器別に疾患の概念、診察、検査、診断、治療の基本を系統的講義で学びます。少人数グループにわかれ、症例シナリオを用いる問題基盤型学習も含まれます。
 - 共用試験に合格した学生は Student Doctor として5年次から臨床実習を行います。臨床実習では、すべての科を網羅的に実習するとともに長期間の診療参加型実習を学内外で行い、臨床推論能力を含めた実践的な臨床能力の獲得を目指します。
 - 地域実習および国際交流を積極的に行い、広い視野を養い、地域社会および国際社会で活躍できる資質を習得する教育を行います。
- 学修成果の評価方法
シラバスに記載された学修目標について、授業中の小テストや発表、レポート、筆記試験、実技試験などの多面的な評価方法により、それぞれの到達状況を客観的に評価します。4年次、6年次に行われる医療系大学間共用試験実施評価機構による CBT（Computer Based Testing）、Pre-CC OSCE（Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination）、Post-CC OSCE などの試験も評価に含めます。

■ ディプロマポリシー（学位授与方針）

和歌山県立医科大学医学部は次の能力を獲得した者に学士（医学）の学位を授与します。

- 命を扱う職業である医師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- 総合的、専門的医学知識とともに医学研究や臨床研修を行うに足る技能を有しているもの
- 単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの
- 国際的視野を有し、地域での医療ができるもの



和歌山県立医科大学 学長
宮下 和久

大いなる未来へ、世界へ！和歌山の地からチャレンジ！

和歌山県立医科大学医学部を目指すみなさんへ！心から歓迎のエールを送ります。

本学は、昭和 20 年に和歌山県立医学専門学校として設立され、以来 70 余年の歴史の中で、優れた医療人の育成、先端医学研究の展開、高度・先進医療さらには地域医療の実践などを通じてたゆまない発展を続けています。

平成 10 年には大学本部、医学部、附属病院を紀三井寺キャンパスへ移転整備を致しました。さらに、三葛キャンパスに保健看護学部、大学院保健看護学研究科及び助産学専攻科を設置、さらには医学部定員を 100 名に増員しました。また、高度医療人育成センター、地域医療支援センターを設置、附属病院東棟を増築、次世代医療研究センターを設置するなど大きく発展を遂げてきました。さらに一昨年 4 月には伏虎キャンパスに薬学部（6 年制定員 100 名）を開設し、医・薬・看の 3 学部を擁する医療系総合大学として新たなスタートを切りました。

医療の多様化・複合化や高齢化の急速な進展、健康に対する社会的ニーズの高まりの中にあつて、本学は、医療社会情勢の変化に対応できる高度で専門的かつ総合的な医療人を育成します。

カリキュラムポリシーに則り、3 学部相互の多職種連携教育、ケアマインド教育及び早期からの参加型実習を通して、社会人として必要な教養を涵養し、医療人として必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力及びケアマインドを育成します。アウトカム基盤型教育を通し、高度で専門的かつ総合的な医学的能力を備え、地域医療と国際社会に貢献できる人材を育成します。特色として、教養教育の 3 学部一体的展開、3 年次に基礎配属をのべ 10 週間にわたり実施すること、基礎医学と臨床医学との縦断的統合授業を行うことなど医学教育の充実、活性化を図ります。また、大学院準備課程 (MD.PhD コース) を設け、学生時から大学院を目指す研究徒を積極的に支援します。

本学附属病院は、特定機能病院に指定され、最先端の医療を提供する傍ら、高度な臨床医学教育の場として機能しています。特徴として、国公立大学では初のドクターヘリを導入し、高度救命救急センターは、全国トップクラスの機能評価を受けています。また、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の複数整備、がんゲノム医療連携施設に指定されるなど、高度な治療体制が整備されています。さらに、中央部門に「膀胱がんセンター」と「脳卒中センター」を設置し、それぞれ膀胱がんの早期診断・早期治療や脳卒中に対する高度な外科治療からリハビリテーションに至る医療の充実を図っています。その他、総合周産期母子医療センターやへき地診療所と当院を結ぶ遠隔外来システム、遠隔救急支援システム等専門施設が網羅的に整備され、豊かな医療環境を生かしながら高度かつ専門的教育を実践します。

医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育を基本としながら、質の高い医療人を養成するための独自のカリキュラムを実践します。本学は、平成 30 年 3 月、日本医学教育評価機構から「医学教育分野別評価」に適合する評価を受け、国際基準を満たす教育を実践しています。本県における未来の地域医療を担う意欲・使命感をもった医療人を育成するとともに国際社会で活躍できる優れた医療人を育成します。

「地域とともに世界に羽ばたく大学！」をスローガンのもと、卒前から卒後まで一貫した教育理念に基づき、入学時から卒後研修までシームレスな教育、キャリア形成を実践します。

新型コロナウイルス感染症の汎流行にともない、教育体制の見直しを余儀なくされました。この経験を生かしアフターコロナ時代を見据えた、遠隔講義システムをはじめ、VR・AR を活用した体験型教育手法の導入など、来るべき ICT 時代にふさわしい教育環境、教育システムの構築を進めています。

医療の未来、本学の未来は皆さんの手の中にあります。今まさに本学は、医療系総合大学として君たち若人ともに大きく羽ばたこうとしています。医師、医学研究者をみぞす諸君よ、本学は、若い力を、夢を、存分に実現できる環境を整えて情熱あふれる若人を歓迎します。

皆さんとともに教育、研究、医療の分野でのオンリーワンの大学をこの和歌山から創っていかうではありませんか。

大いなる未来へ、世界へ！和歌山の地からチャレンジ！そんな情熱あふれる若人を待っています。



校章

マークの意匠は、和歌山が生んだ医聖・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「まんだらげ（チョウセンアサガオ）」の花に「医」の文字をデザインしたものです。「まんだらげ」の花の絵は陶芸家富本憲吉氏の作で、もとは昭和 3 8 年に開催された医学総会のために描かれたものでした。その後「医」の文字を付加して、和歌山県立医科大学のマークとして永年親しまれてきた歴史を経て、昭和 6 2 年に正式に校章として認定されました。



活物窮理の碑



本学で医師を志す皆さんに期待を込めて



和歌山県立医科大学 医学部長
伊東 秀文

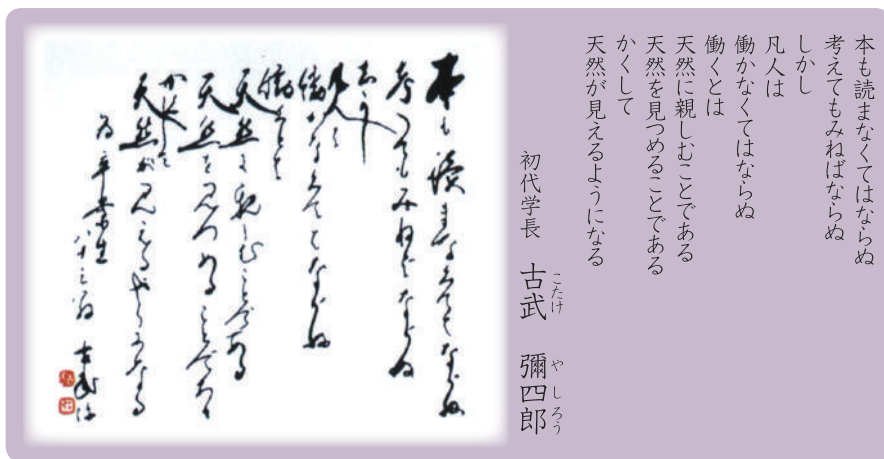
病によって深い苦しみの中におられる方々に手を差しのべ、疾患の克服と苦痛の緩和に全力を尽くして懸命に取り組む医師を育成することこそが、私たち和歌山県立医科大学医学部の使命です。創立以来 75 年以上にわたり、本学は多数の優れた医師・研究者を輩出し、人々の健康と医学の発展に貢献してきました。

この間にも医学は飛躍的に進歩し、以前はまったく分からなかった病気の原因や病態が次々と明らかになり、分子レベルでの治療も可能となってきました。しかし一方で、原因がいまだにわからず、治療のすべがまったくない病気も数多く存在しています。このような患者さんに対して現在の医学は無力ですが、それでも私たちはその苦痛を少しでも和らげるため、多職種のメディカルスタッフと力を合わせ、医療と看護を通じて誠心誠意患者さんと向き合わねばなりません。

これらのことから、医学部 6 年間で身につけなければならないことがいくつかあることがわかります。まず、患者さんを正確に診断し適切に治療するためには、正しい医学知識と確かな診療技能を身につけることが必要です。しかし診断は必ずしも簡単につくとは限りませんし、治療もすぐに効果が出ない場合もあり、合併症や副作用で病態が複雑になることもまれではありません。そうした場合でも、問題を整理し、粘り強く解決していく問題対応能力が必要です。良好な患者医師関係を築き、チーム医療を実践し、医療の安全を確保するためには、適切なコミュニケーション能力が求められます。2021 年、医療系総合大学となった本学は、医学部学生にとって、今後ますます進む超高齢社会における医療に必要な多職種連携を学ぶ絶好の環境が整ったといえます。

医学を学び、医師としての経験を積んでいくうちに、現在の医学の限界を痛感する時が来ます。現状に甘んじたりあきらめたりせず、そうしたときこそ科学的探究心を持って、病態解明や新たな治療法開発の研究に力を注いでほしいと思います。これこそが本学開学の理念のひとつである華岡青洲の「活物窮理」そのものであり、本学の初代学長、古武彌四郎先生のおことばに通じる精神です。医学は常に進歩します。これから医師となろうとする皆さんは、常に患者さんに最新の医療を提供するため、生涯にわたって学び続ける姿勢を忘れてはなりません。

このように、日々の努力と研鑽によって身につけた知識や技術も、使い方を誤れば危険な凶器となります。これらをどのように用いるかを決めるのが、医師にとって最も重要な「倫理観」です。医師は、高度な専門性とともな公益性や道徳性が強く求められるプロフェッションです。患者さんのために自分はどうか決断し、どう行動すべきか、最善の判断を下すための高邁な倫理観が培われるよう、高い志を持って人間性を磨き、自らを高めていただきたいと思います。私たち和歌山県立医科大学医学部の教職員は、そのような皆さんを全力で支援します。



初代学長 古武彌四郎先生之像



和歌山県立医科大学医学部の特徴

医療系総合大学の強みを活かしたカリキュラム

医学部、薬学部、保健看護学部 3学部の共同講義を実施

高い国家試験合格率

医師国家試験合格率

95.2%

(2023年医師国家試験)

☑ 自習室を完備

教員と学生の距離が近い教育

教員1人当たりの学生数

約**1.4名**

医学部定員600名に対して、
教員約430名
(令和5年4月現在)



国際交流制度 の充実

本学との国際交流の
協定先は20以上あり、
在学中の留学を
積極的に支援します。

カリキュラム概要

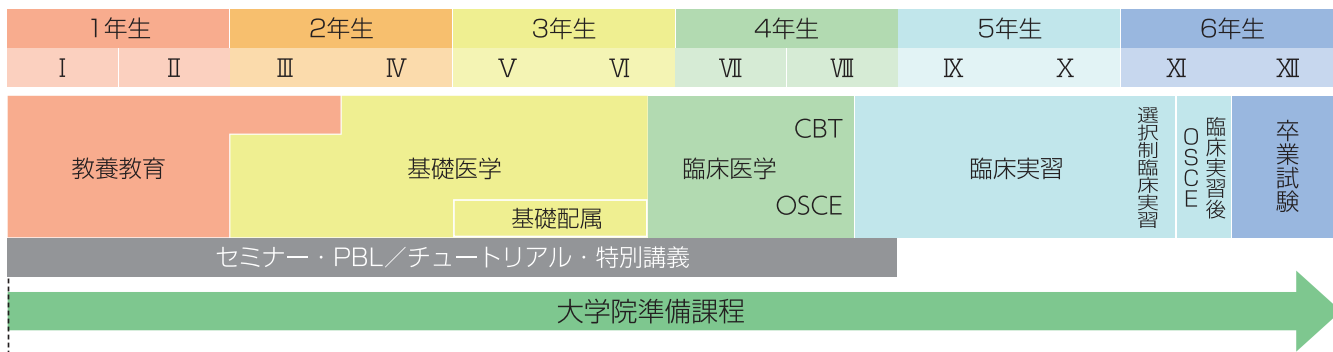
和歌山県立医科大学医学部は、知識に偏重した従来型の教育を脱却し、知識・技能・態度（倫理観）を総合的に育成できる教育を目指して成果基盤型教育を行っています。また、構造・機能、臓器別の横断的・総合的なカリキュラムを導入し、平成27年度には1～4年次にも患者に接する機会を増やすなど国際基準に適合し、臨床・研究能力の高い医師の育成が出来るようにカリキュラム改革を行いました。

改革の骨子は、1年次にはリベラルアーツ（教養教育）が中心となります。具体的には、医学部への準備教育や自然科学、社会人としての教養、医師としての倫理を学ぶ期間です。また、2年次、3年次には臨床の基礎となる基礎医学の領域を中心として学ぶとともに、基礎配属において研究に親しむ期間を設けております。3年次の後半から4年次には臨床医学の基礎的な内容を学び、共用試験に合格した学生はStudentDoctorとして臨床実習を開始します。臨床実習では期間を延長するとともに、より診療参加型実習を行います。臨床実習後OSCEを行い臨床技能の評価を行います。

また、患者の方々の心の痛みにも目を向け、社会的な支援システムなども理解し、地域医療にも早期から慣れ親しむためのケアマインド、地域医療マインド育成にも力を入れており、1年次より早期臨床体験実習や地域福祉施設体験実習を行い、2年次には保育園実習・障害者福祉施設実習、さらに、臨床技能をシミュレーターを用いて磨き、より実践的な技能を身に付けられるよう臨床技能研修センターも併設しています。

平成25年度からは、大学院博士課程の一部を履修できる「大学院準備課程」を開始しました。これにより、医学部在学中に研究の基礎を学ぶことができるほか、大学院履修期間の短縮も可能となります。

これらの取り組みを通じて、本学では総合的・専門的な基礎・臨床能力を高めるとともに医師としての倫理観、人間性の涵養を図り、地域医療に貢献し、国際的にも活躍できる全人的医学教育を目指しています。



大学院
博士課程



令和6年度入学試験の概要(予定)

出願資格・入試日程・入試科目・出願方法等について、学生募集要項を必ずご確認ください。

選抜者区分		学校推薦型選抜	一般選抜 (前期日程)					
募集人員		一般枠 6名程度 (県内募集)	一般枠 64名程度 (学校推薦型選抜の「一般枠」の入学人数により若干名増減する。)					
		県民医療枠A 5名程度 県民医療枠B 3名以内 (全国募集) (注) 県民医療枠A、Bは優先順位を付け、併願することができます。	県民医療枠A 10名程度 (学校推薦型選抜の「県民医療枠A」の入学人数により若干名増減する。) 県民医療枠C 2名程度 (学校推薦型選抜の「県民医療枠B」で募集人員に満たない場合は、その不足分を募集人員に追加する。)					
		地域医療枠 10名 (県内募集)	(注) 県民医療枠Aと県民医療枠Cは優先順位を付け、併願することができます。					
主な出願資格		<ul style="list-style-type: none"> 高等学校を令和6年3月に卒業見込みの者か令和5年3月に卒業した者 調査書の全体の評定平均値4.3以上の者 (注) 推薦人員は高等学校1校につき最大10名 (一般枠3名以内、県民医療枠Aと県民医療枠Bの合計4名以内、地域医療枠3名以内)	高等学校を卒業した者及び高等学校を令和6年3月卒業見込みの者					
選抜方法	第一段階選抜 (大学入学共通テスト)	国語	『国語』	国語	『国語』			
		地理歴史・公民	『世界史B』『日本史B』『地理B』『倫理、政治・経済』から1科目選択	地理歴史・公民	『世界史B』『日本史B』『地理B』『倫理、政治・経済』から1科目選択			
		数学	『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ・数学B』	数学	『数学Ⅰ・数学A』の1科目と『数学Ⅱ・数学B』『簿記・会計』『情報関係基礎』から1科目選択の計2科目 ※『簿記・会計』『情報関係基礎』は高等学校等で履修した者のみ選択可能			
		理科	『物理』『化学』『生物』から2科目選択	理科	『物理』『化学』『生物』から2科目選択			
		外国語	『英語』(リスニングテスト含む。)	外国語	『英語』(リスニングテスト含む。)			
		一定以上の学力水準を満たした者を選抜するため、大学入学共通テストの成績により、第一段階選抜を行います。	以下のとおり大学入学共通テストの総合得点かつ志願倍率により実施します。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>大学入学共通テストの総合得点</td> </tr> <tr> <td>原則として630点以上※</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> </tr> <tr> <td>約3.4倍(募集人員76名程度)</td> </tr> </table>		大学入学共通テストの総合得点	原則として630点以上※	志願倍率	約3.4倍(募集人員76名程度)
	大学入学共通テストの総合得点							
原則として630点以上※								
志願倍率								
約3.4倍(募集人員76名程度)								
第二段階選抜 (個別学力検査等)	「学校長による推薦書」 「調査書」 「自己推薦書」 「面接」	英語 「コミュニケーション英語Ⅰ」 「英語表現Ⅰ」 「コミュニケーション英語Ⅱ」 「英語表現Ⅱ」 「コミュニケーション英語Ⅲ」	数学 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」 「数学A」「数学B(数列・ベクトル)」	理科 「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」から2科目選択	「大学入学共通テスト」「面接」			

※一般選抜(前期日程)の第一段階選抜における大学入学共通テストの総合得点は、独立行政法人大学入試センターから公表される大学入学共通テストの平均点(中間発表)によっては、630点未満でも合格となる場合があります。その場合、合格に必要な新たな大学入学共通テストの総合得点を出願開始前までに大学ホームページで公表します。

※学校推薦型選抜は、第一段階選抜合格者の中から、学校長による推薦書、調査書、受験生が記述した自己推薦書及び面接により、総合的に評価し合格者を決定します。

※一般選抜は大学入学共通テストの成績、個別学力検査の成績及び面接の結果を総合的に評価して合格者を決定します。従って大学入学共通テスト及び個別学力検査等の総計が合格者最低得点を上回っていても不合格となる場合があります。



県民医療枠について

目的

和歌山県内の公的病院において地域医療に携わるとともに、和歌山県医療の指導的・中心的な役割を担う人材を、大学入学時から15年間一貫した卒前卒後教育によって育成するために平成20年より設置しました。

また、和歌山県内で医師不足が深刻な産科医、小児科医、精神科医を育成するために令和5年度より卒業後の診療科を指定した県民医療枠Bと県民医療枠Cを新設しました。

どの募集枠も卒業後9年間のキャリア形成の一部について、和歌山県内で中核的役割を果たす公的医療機関等を中心に行うことを条件としています。

募集枠について

県民医療枠 A ・和歌山県内で従事する医師を育成する募集枠（診療科の指定なし）。
・学校推薦型選抜及び一般選抜で募集。

県民医療枠 B ・和歌山県内で「産科」に従事する医師を育成する募集枠。
・学校推薦型選抜で募集。

県民医療枠 C ・和歌山県内で「産科・小児科・精神科」のいずれかに従事する医師を育成する募集枠。
・初期臨床研修修了年次に3診療科の中から診療科を選択する。
・一般選抜で募集。

キャリア形成プログラム（コースイメージ）

県民医療枠 A の入学者

		9年								
		県内勤務期間								
本学医学部		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
医学生	1～6年生	本学での 初期臨床研修		専門研修	2年 地域派遣		専門研修		2年 地域派遣	
		●和歌山県内の専門研修プログラムに登録								

県民医療枠 B の入学者及び県民医療枠 C の入学者のうち「産科」を選択する者

		9年								
		県内勤務期間								
本学医学部		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
医学生	1～6年生	本学での 初期臨床研修		3年 地域派遣（産科）			本学等での専門研修 （産婦人科）		2年 地域派遣（産科）	
		●本学の専門研修プログラムに登録								

県民医療枠 C の入学者のうち「小児科」もしくは「精神科」を選択する者

		9年								
		県内勤務期間								
本学医学部		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
医学生	1～6年生	本学での 初期臨床研修		3年 地域派遣（小児科・精神科）			本学等での専門研修 （小児科・精神科）		2年 地域派遣 （小児科・精神科）	
		●本学の専門研修プログラムに登録								

※詳細は、和歌山県のホームページでご確認ください。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/career/careerkeiseiprogram.html>





地域医療枠について

目的

和歌山県内のへき地医療拠点病院及びへき地診療所等で勤務する医師を育成するために、和歌山県の医療政策の一環として平成20年に設置されました。

卒業後9年間のキャリア形成の一部について、へき地医療拠点病院等を中心に行うことを条件にしています。

募集枠について

和歌山県内のへき地医療拠点病院及びへき地診療所等で勤務する医師を育成する募集枠。

学校推薦型選抜で募集。

なお、和歌山県内の高等学校を卒業（卒業見込み）もしくは、和歌山県外の高等学校を卒業（卒業見込み）であって、出願時に扶養義務者（現に本人を扶養している者）が引き続き3年以上和歌山県内に居住している者が出願対象となります。

キャリア形成プログラム（コースイメージ）

		9年								
		県内勤務期間								
本学医学部		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
医学生		本学での 初期臨床研修			3年 地域派遣			本学等での専門研修		2年 地域派遣
1～6年生		●本学の専門研修プログラムに登録								

※詳細は、和歌山県のホームページでご確認ください。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/career/careerkeiseiprogram.html>



和歌山県医師確保修学資金の貸与制度について

目的

和歌山県では県内の医師の確保及び充実を図るため、将来医師として勤務しようとする方に対し、修学資金制度を設けています。

募集枠ごとの勤務条件等を満たした場合、**貸与金の返還義務が免除**となります。

貸与対象者

県民医療枠B、県民医療枠C、地域医療枠の入学者

貸与金

1か月 自宅外から通学する者 15万円
自宅から通学する者 10万円

貸与期間

6年間（通常）

※詳細は、和歌山県のホームページでご確認ください。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/ishisyugaku/ishisyuugaku.html>





受験生の皆さんへ

1年生

鶴見 愛海

和歌山県立医科大学に興味をもち、このパンフレットを手にとってくださっている受験生の皆さん、こんにちは。現在皆さんは、大学受験に不安や期待を抱きながら、日々勉強に励んでいることと思います。この冊子が皆さんの志望校選択のご参考になれば幸いです。

私は小学生の頃から産科医という仕事に興味を持っていました。そして高校三年生になり志望校を決めていく中で和歌山県立医科大学が全国で初めて産科に限定した入学者枠を作ったというニュースを目にしました。この時私は、自分の夢を叶えるのにこれから進むべき道は和医大に入学することだと決意し、産科枠である県民医療枠Bに出願し、合格することができました。

県民医療枠Bに出願すると決める前は、最善の道だとは思いつつも、何もまだ学んでいない段階で将来進む科を決めてしまうということに関して正直不安がありました。今これを見てくださっている受験生の中にも同じ気持ちを抱えている人がいるかもしれません。私は進路を決定する上で産科医についてたくさんのことを調べました。産科医は生命の誕生に携わるとても重要な仕事で、患者さんを唯一「おめでとうございます。」と伝えて送り出すことのできる仕事です。産科医の魅力はきっともっとあります。私はこんな素晴らしい職業につけるスタート地点に立っていることを今はとても誇りに思っています。そして多くの人に信頼され、一つでも多くの新たな命を無事取り上げることができる産科医になれるようにこれから日々努力し、和歌山県の医療に産科医として少しでも役に立てるような存在になっていきたいと思っています。

受験生の皆さん、『継続は力なり』という言葉があるように、思うような結果が出ず苦しくても、諦めずに毎日コツコツと努力すれば必ず結果はついてきます。産科医として働きたいと夢見る皆さんと共に、和医大で切磋琢磨しながら学べることを楽しみにしています。

教養教育科目

教養教育科目の授業は、1～2年前期にかけて行われます。人としての幅広い見識と、専門医学への準備としての基礎知識を身につけることを目的としています。

また、入学後早い時期に医療の現場を体験する「Early Exposure 早期臨床体験実習」を実施し、医学及び医療に対する関心を高め、これからの医学を学ぶにあたっての問題意識を深めるカリキュラムがあります。

- 数学 ●統計学 ●医学統計学 ●数理学 ●物理学 ●化学
- 生物学 ●情報処理 ●英語・ドイツ語・フランス語・中国語
- 保健体育 ●ケアマインド教育 ●倫理学 ●法学 ●心理学 ●哲学
- 社会学 ●医療社会科学 ●医療行動科学 ●医療経済学 ●物理学実習
- 化学実習 ●生物学実習 ●心理学実習 ●早期臨床体験実習
- 教養セミナー ●医学入門 ●医学概論



図書館棟・福利厚生棟・噴水



高度医療人育成センター



和医大での学生生活

3年生

山本 有美恵

こんにちは。3年生の山本です。この度はこの冊子を手にとっていただきありがとうございます。皆さんの志望校選びや受験勉強のモチベーションに繋がれば幸いです。

私は県内の高校から地域医療枠で入学しました。医師として、自分の生まれ育った和歌山県で、和歌山の人々のために働きたいと考えたからです。はっきりとはまだ決めていないのですが、小児科や産婦人科に興味があります。

私は現在3年生です。1年生では教養科目を、2年生では基礎医学科目を学びました。1年生の講義はほとんどオンラインでしたが、2年生からは対面で行うことができ、ようやく大学で学び始めた実感が湧きました。どの講義も興味深かったのですが、最も印象に残っているのは解剖実習です。解剖実習は2年生の夏までに人体の正常な構造について勉強した後、秋から3ヶ月ほど行います。解剖実習は教科書や講義で得た知識をもう一度復習し、更なる理解に繋がる大変良い機会でした。先生方も熱心かつ丁寧に教えてくださるため、毎回の授業に積極的に取り組むことができました。

学生生活についても少しお話したいと思います。私は硬式テニス部に所属しています。コロナ禍も徐々に落ち着いてきて、この春初めて近畿大会に出場することができました。次の目標は夏に行われる西医体という大きな大会です。和医大では運動部、文化部共に活発に活動しており、多くの学生が部活動に所属しています。自分が今まで取り組んできたことを続けるにも、大学で新しいことを始めるにも最適な環境です。部活動では同学年だけでなく先輩、後輩との繋がりができます。

医学生になると毎日のように勉強に追われるのかと思っていましたが、実際はそうでもなく、部活に充てる時間、バイトをする時間、友達と遊ぶ時間は十分にあります。日々の勉強はもちろん大切ですが、大学入学後は自分がしたいことに思う存分挑戦してほしいと思います。私の目標は大学生の間に全ての都道府県を観光することです。

最後になりますが、皆さんと和歌山県立医科大学で共に学生生活を送れることを楽しみにしています。

基礎医学科目

基礎医学科目の授業は2～3年にかけて行われます。「基礎医学」は医学の原点であり、臨床医学と表裏一体をなすものです。肉眼解剖から遺伝子レベルに至る人体の構造と機能を学び、さらに病気の病態、病因、薬物の作用、および社会と疾病の関わりについても学びます。

また、各講座に少人数で配属され、自分の興味のあるテーマを選び、基礎医学の研究室で実際の研究に触れる機会があります。

- 生体分子の構造と機能 ●細胞の構造と機能 ●人体の正常構造と機能
- 基礎医学英語 ●地域医療・地域保健Ⅰ ●特別講義 ●生体と微生物
- 病因と病態 ●人の死（法医学） ●免疫と生体防御 ●生体と薬物
- 生態と病害動物 ●遺伝子と遺伝子異常 ●医学英語 ●解剖学実習
- 生理学実習 ●生化学実習 ●薬理学実習 ●病理学実習
- 微生物学実習 ●基礎配属 ●地域実習



次世代医療研究センター



基礎教育棟



和医大で豊かな学びを

5年生

松井 洸樹

みなさん、こんにちは。和歌山県立医科大学医学部5年生の松井洸樹です。和医大の学生としてどのような生活を送っているのか、またその中で考えていることやこの生活の魅力について少しでもお伝えすることができればと思い書かせていただいています。

1年生から3年生までの勉強は一般教養から始まり人体の構造について、そして基礎医学といゆる医学的な内容へと少しずつ近づいていくような感覚がありましたが、4年生ではついに臨床医学の講義が始まります。昔から医師を志していた自分にとっては実際に臨床の現場で活躍されている先生方から学び、知識を自分のものにしていくことができる時間はとても充実した1年間でした。そして、5年生になった現在は臨床実習として日々内科や外科などの様々な科を回って見学・体験をさせていただいています。臨床実習の内容としてはカンファレンスや回診に参加させていただいたり、手術の見学、患者さんに問診や診察をしたりと科によって様々です。医療の現場に実際に立ち、患者さんとの会話などを通して医療現場の現実や患者さんの悩みに直接触れることができる今の時間は、今まで教科書などの知識としてしか接することのなかった医師としての仕事の内容がどんどん自分の中で現実的なイメージへとつながってきているような感覚があり、日々楽しみながら同期の仲間とともに活動することができています。

医学生としての生活はここまで書いてきた通り学ぶことが多く大変なこともあります。それ以上に楽しく充実しています。特にここ最近ではコロナの影響でなかなか思うようにできていなかった部活や複数人での食事なども徐々にできるようになってきています。自分自身バドミントン部に所属していますが運動を楽しむだけでなく、先輩や後輩との縦の繋がりや学部を超えた交流が多くできそれは自分の中でとても意味のあるものだと感じています。

最後になりますが、みなさんとともに充実した学生生活を送れることを心から楽しみにしています。ご高覧ありがとうございました。

臨床医学科目

臨床医学科目は3年目後半から始まり、病気の診断、治療、予防について学びます。臨床実習は4年目後半～6年目前半にかけて、少人数に分かれて行われます。

医療の現場を体験しながら、良き医師としての態度や知識・技術を身につける場であり、教科書からは得がたいものを自ら学びとります。講義には、臓器別に疾患をとらえた系統的講義と各科の特徴をふまえた講義があり、臨床医学を総合的に理解するための工夫が凝らされています。

- 血液系 ●代謝内分泌系 ●感染・腫瘍免疫系 ●循環器系 ●呼吸器系
- 消化器系 ●神経系 ●腎・泌尿器系 ●特殊感覚系（耳鼻咽喉科）
- 特殊感覚系（眼科） ●皮膚科学 ●運動器系 ●精神医学系 ●生殖系
- 小児科学 ●麻酔科学 ●救急医学 ●臨床検査医学 ●画像医学
- 放射線治療 ●リハビリテーション ●歯科口腔外科学 ●緩和医療
- 病態栄養治療学 ●東洋医学 ●医療情報学 ●個人情報 ●医と法
- 医療安全 ●腫瘍内科学 ●形成外科学 ●リウマチ・膠原病系
- 衛生学・公衆衛生学 ●病理診断学 ●地域医療・地域保健Ⅱ
- 総合診療 ●臨床英語 ●特別講義（東洋医学） ●看護体験実習
- 臨床実習入門 ●臨床実習



実習風景



実習風景



受験生の皆さんへ

研修医 2年目

山本 裕介



この度は和医大のパンフレットに目を向けていただきありがとうございます。和医大での学生生活と当院の初期研修について簡単にお話したいと思います。

私は大阪の高校から3年間の浪人期間を経て合格しました。入学してすぐに卓球部に入部し、毎年夏に行われる西日本医科学学生総合体育大会に向けて、部員一丸となって練習に取り組みました。ほぼ部活中心の学生生活でしたが、試験期間には友人と大学の勉強部屋を借りてお互いに教えあいながら勉強をしていました。あまり勉強が得意な方ではなかったのですが、国家試験の直前には精神的に追い詰められた時もありましたが、息抜きに同期や部活の後輩とご飯に行くことでリフレッシュする事ができました。同期や部活でのつながりは学生生活において私の財産となっています。今でも研修病院が違う同期や先輩と集まって、お互いの近況を話したり情報交換をしたりすることで刺激ももらっています。

ここからは和医大の初期研修について話します。和医大の研修生活はとても充実しています。大学病院なので診療科もたくさんあり、指導医の数が多いので、手厚い指導を受けられます。また、研修医向けの教育プログラムや症例検討会なども行われており、より深い知識と技能を身につけることができます。そして同期の研修医は毎年60人近く入職するので、同期にも先輩にも相談しやすい環境もあります。研修開始直後は不安もありましたが、同期と不安や悩みを共有できることはとてもありがたいことだと実感しました。

和歌山県立医科大学付属病院の初期研修の特徴は全国的にも有名な研修制度で、3か月ごとに研修する診療科を選択できるので、その都度自分に必要な科を選んでまわることができます。研修開始時には、志望科がまだ決まっていなかったため、研修を進めながらまわる科を決めていけるのは非常に良かったです。また和医大は県内唯一の大学病院であり県下最大の3次救急病院ということもあり、ほかの病院で治療困難であった患者さんがよく和医大に搬送されてきます。救急を頑張りたいと思う人には、うってつけの環境だと思います。また地域医療に必要なスキルを学ぶことができ、将来的に地域医療に携わる医師としての基礎を築くことができるので、お勧めです。

いろいろと書きましたが、和医大の初期研修制度は誰でも安心して研修に集中できる環境が整っています。ぜひ、和医大に入学してください。我々は、みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています！



1年目研修医 集合写真

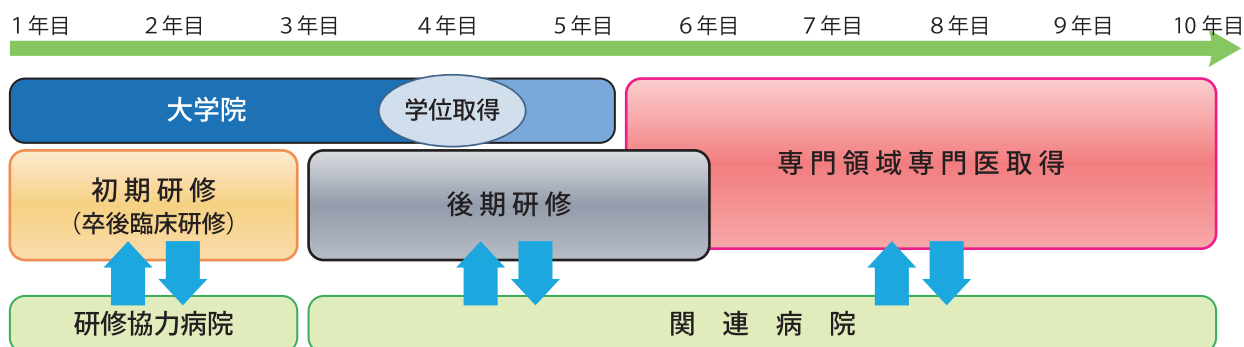


感染予防研修



BLS（一次救命処置）研修

和歌山県立医科大学付属病院研修イメージ（一般入学卒の場合）※卒業年数等はイメージです





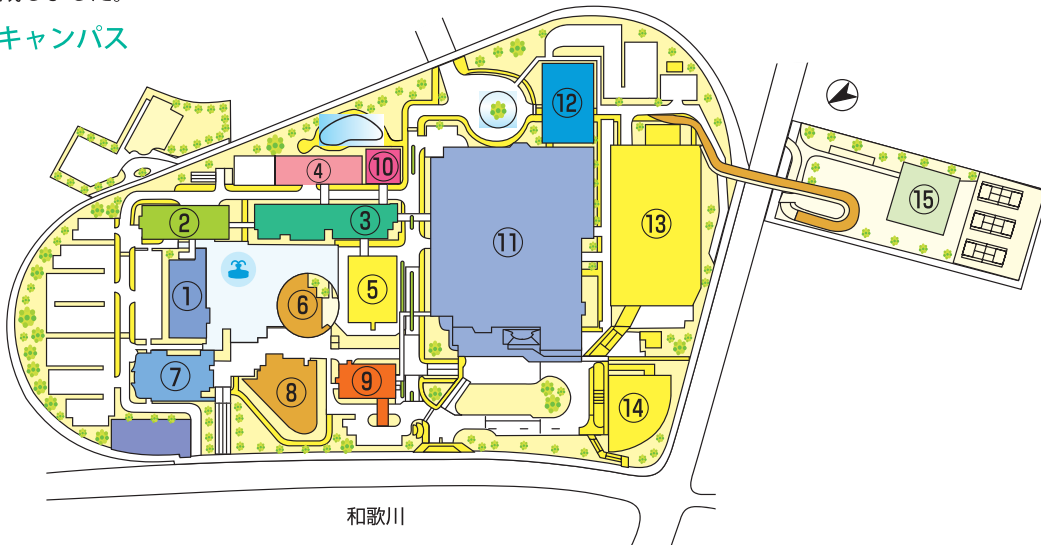
Campus Map (紀三井寺キャンパス)

本学の紀三井寺キャンパスは、「海・森・命」をデザインキーワードに北側の学部は和歌浦に浮かぶ「玉津島山」に見立てた9棟の建物群からなり、南側の病院棟では、波のイメージの曲線や森のイメージの緑色が使われています。東側には水路状の池と植栽を施し、それを回る遊歩道を設け患者や一般の人々に憩いの場を提供しています。図書館の壁には「生命の潮流」が描かれており、研究棟の玄関には「紀国山海宝船」、3階から10階には海から森そして天へと巡回するアートワークが施されています。

また、平成25年度末には附属病院（東棟）が完成し、県民医療枠や地域医療枠の学生が卒後、医師として専門医や学位を取得できるよう、キャリア形成の支援をより充実して行えるようになりました。

さらに、令和2年9月には、医学部、保健看護学部、薬学部の3学部が共同で研究を行うことなどを目的とした次世代医療研究センターが完成しました。

○紀三井寺キャンパス

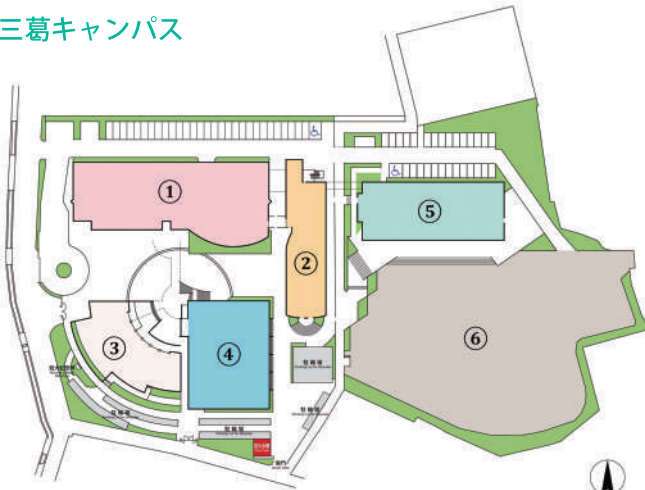


- ①基礎教育棟
- ②実習棟
- ③研究棟
- ④次世代医療研究センター
- ⑤R I・動物実験施設
- ⑥福利厚生棟
- ⑦講堂
- ⑧図書館
- ⑨管理棟
- ⑩高度医療人育成センター
- ⑪附属病院（中央棟）
- ⑫附属病院（東棟）
- ⑬立体駐車場
- ⑭エネルギーセンター
- ⑮体育館

Campus Map (三葛キャンパス)

J Rきのくに線紀三井寺駅から北へ約1 kmの位置に本学の三葛キャンパスがあります。周りを閑静な住宅街に囲まれたこのキャンパスでは、医学部1年生がリベラルアーツ（教養教育）を中心に学んでいます。

○三葛キャンパス



三葛キャンパス

- ①管理・校舎棟
- ②研究棟
- ③図書館棟
- ④体育館棟
- ⑤医学部三葛教育棟
- ⑥グラウンド



Wakayama Medical University

大学では現在25の体育会と19の文化会が活動をしています。
課外活動は、3学部合同で活動しており、大学全体での交流の場となっています。

体育会

- | | | |
|------------------|------------|----------|
| ●卓球部 | ●ソフトテニス部 | ●ゴルフ部 |
| ●バレーボール部 | ●フットサル部 | ●空手道部 |
| ●ヨット部 | ●準硬式野球部 | ●ラグビー部 |
| ●剣道部 | ●スキー・山岳部 | ●合気道部 |
| ●柔道部 | ●陸上競技部 | ●ボート部 |
| ●水泳部 | ●バスケットボール部 | ●ダンスサークル |
| ●バドミントン部 | ●サッカー部 | ●軟式野球部 |
| ●硬式テニス部 | ●女子バレーボール部 | ●競技かるた部 |
| ●3×3バスケットボールサークル | | |

文化会

- | | | |
|------------------|------------------|----------|
| ●軽音楽部 | ●美術部 | ●裏千家茶道部 |
| ●音楽研究部 | ●ESS部 | ●保健看護茶道部 |
| ●Wakayama Will 部 | ●アカペラ部 | ●演劇部 |
| ●華道部 | ●クイズ研究会 | ●釣魚部 |
| ●米国医学研究会 × USMLE | ●文芸部 | ●手話サークル |
| ●わくわく子育てボランティア | ●ミュージックボランティアクラブ | ●手芸サークル |
| ●薬学ボランティアサークル | | |



サッカー部



合気道部



空手道部



バドミントン部



剣道部



水泳部



ボート部



軟式テニス部



軽音楽部



ESS部



陸上競技部



硬式テニス部



音楽研究部



ゴルフ部



スキー部



年間スケジュール

4	上旬	春期休業／入学式／新入生ガイダンス	 <p>入学式</p>
	中旬	新入生研修	
	下旬	学生健康診断・Student Doctor 称号授与式	
5	上旬		 <p>西日本医科学生総合体育大会 激励会</p>
	中旬		
	下旬		
6	上旬		 <p>西日本医科学生総合体育大会 激励会</p>
	中旬		
	下旬		
7	上旬	西日本医科学生総合体育大会 激励会	 <p>篤志解剖体慰霊祭</p>
	中旬		
	下旬	夏期休業 (7月下旬～8月下旬) OSCE (6年)	
8	上旬	西日本医科学生総合体育大会 (8月上旬～中旬)	 <p>紀葉祭</p>
	中旬	オープンキャンパス	
	下旬		
9	上旬		 <p>学校推薦型選抜願書受付</p>
	中旬		
	下旬		
10	上旬		<p>大学入学共通テスト</p>
	中旬	篤志解剖体慰霊祭, CBT (4年)	
	下旬	紀葉祭 (大学祭)	
11	上旬		<p>一般選抜 (前期日程) 願書受付</p>
	中旬	OSCE (4年)	
	下旬		
12	上旬		<p>学校推薦型選抜及び合格発表</p>
	中旬		
	下旬	冬期休業 (12月下旬～1月上旬)	
1	上旬		<p>一般選抜 (前期日程) 試験</p>
	中旬		
	下旬		
2	上旬		<p>一般選抜 (前期日程) 合格発表</p>
	中旬	医師国家試験	
	下旬	開学記念日	
3	上旬		<p>卒業式</p>
	中旬	卒業式・学年末休業 (3月中旬～下旬)	
	下旬		



入学科・授業料(令和5年度実績)

入学金	県内生	282,000円
	県外生	752,000円
授業料	年 額	535,800円

※在学中に授業料が改定された場合は、改定時から新授業料が適用されます。

高等教育の修学支援新制度

住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯を対象に、学生生活に必要な生活費等をカバーする給付型奨学金と授業料等減免による支援を行う制度です。

世帯所得金額に基づく区分	給付奨学金支給月額		減免額 (年額)	
	自 宅通学者	自宅外通学者	入学金	授業料
	9,800円 or 19,500円 or 29,200円	22,300円 or 44,500円 or 66,700円	94,000円 or 188,000円 or 282,000円	178,600円 or 357,200円 or 535,800円

※「入学金」の減免は、入学月分から支援を受けられる学生が対象です。

奨学金制度

学業・人物とも優秀かつ健康で、経済的理由により修学が困難である学生に対して、日本学生支援機構、地方公共団体及び各種団体等による奨学金制度があります。

※日本学生支援機構貸与奨学金については、右の表のとおりです。

※本学独自の奨学金として、医学部6年生に対して、「修学奨学金」「修学奨励金」として月額5万又は10万円を1年間無利子で貸与する制度等があります。

※高等教育の修学支援新制度の給付奨学金と同時に第一種奨学金を受けると、貸与月額から減額又は増額されることがあります。

(令和5年度)

種 類	区 分	貸与月額
第一種奨学金 (無利息)	自 宅通学者	20,000円 or 30,000円 or 45,000円
	自宅外通学者	20,000円 or 30,000円 or 40,000円 or 51,000円
第二種奨学金 (利息付)		2万から1万単位で上限12万円までの金額

学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

学生が教育研究活動中、通学途中、課外活動中に不慮の事故により災害を被った場合の経済的負担の軽減や、正課、学校行事、及びその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償を補償するため、全ての学生に対し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」及び「学研災付帯賠償責任保険(学研賠)」への加入を義務付けています。

(令和5年度)

種 類	保険料	保険期間
学研災	4,800円	6年間
学研賠	3,000円	6年間
計	7,800円	

入学手続の際に加入していただきます。

アパート等

学生寮はありませんが、大学周辺に多くの学生向けの民間アパートやワンルームマンションがありますので、それらを利用してください。なお、民間アパート等のあつ旋については大学生協にお問い合わせください。

アルバイト

本学ではアルバイトの紹介は行っていません。なお、学生生活においてアルバイトは二義的なものであり学業に影響がないように心がけましょう。



国際交流

本学では、教育及び研究の面で活発な国際交流が行われています。昭和61年度に本学と中国の山東大学と学術交流協定を締結し、平成17年度に医学部学生4名と保健看護学部5名の公式訪問が初めて実現しました。

また、平成18年度からは、国際交流センターを設置し、米国ハーバード大学への学生派遣や中国、タイの大学との交流など、国際交流を推進しています。さらに、外国人研究者や外国人留学生を毎年積極的に受け入れるなど、本学の国際交流はますます活発に展開されています。コロナ禍においても、本学の国際交流はますます活発に展開されています。

■学術交流協定締結先

国名	協定先			
米国	ハワイ大学 医学部			
チェコ共和国	プラハ大学 第2医学部			
ポルトガル共和国	リスボン大学 医学部			
中華人民共和国	山東大学	香港中文大学	上海交通大学 医学院	
大韓民国	延世大学 医学部	高麗大学 医学部	亜洲大学	
タイ王国	マヒドン大学 看護学部	マヒドン大学 公衆衛生学部	コンケン大学 医学部	ブラパ大学
ミャンマー連邦共和国	保健省 医科学局	ヤンゴン第一医科大学	ヤンゴン看護大学	ヤンゴン総合病院
ベトナム社会主義共和国	保健省			
インドネシア共和国	ウダヤナ大学	アイルランガ大学		

■令和4年度 派遣実績 (以下の大学の他、協定校にも留学することが可能です)

対象学年	派遣期間	派遣先	派遣人数
3年	基礎配属期間	シンガポール・ナンヤン理工大学	2名
		ドイツ・ボン大学	1名
		ドイツ・ミュンヘン大学	1名
		イタリア・パルマ大学	1名
6年 (※令和元年度実績)	臨床実習	米国・バーモント大学	2名
		チェコ・チャールズ大学	2名
		タイ・コンケン大学	2名
		米国・ハワイ大学	1名

■令和元年度 受入実績 (以下の大学の学生と交流の機会を設けました。)

プラハ大学	香港中文大学	コンケン大学	ウダヤナ大学
バーモント大学	マヒドン大学	ストラスプール大学	山東大学

入試結果

年度	区分	募集人数 A	志願者数 B	受験者数 C	入学者数 D	うち出身校		志願倍率 B/A	競争倍率 C/A
						県内	県外		
令和5年度	推薦	24名程度	79	31	24	20	4	3.3	1.3
	前期	76名程度	194	157	76	15	61	2.6	2.1
	合計	100名	273	188	100	35	65	2.7	1.9
令和4年度	推薦	21名程度	65	24	19	17	2	3.1	1.1
	前期	79名程度	295	232	81	13	68	3.7	2.9
	合計	100名	360	256	100	30	70	3.6	2.6
令和3年度	推薦	21名程度	57	24	20	18	2	2.7	1.1
	前期	79名程度	243	225	80	12	68	3.1	2.8
	合計	100名	300	249	100	30	70	3.0	2.5

※医学部の入学定員は平成22年度入学生から100名に増員されました。(定員内訳：一般枠 70名、県民医療枠 20名、地域医療枠 10名)



学生募集要項の請求方法

医学部の学生募集要項については、令和5年11月中旬に発表の予定です。

なお、本学に出願する際には、学生募集要項を確認いただく必要がありますが、今年度よりインターネット出願システムに完全移行しますので、学生募集要項を取り寄せなくても出願できます。

また、学生募集要項は、本学ホームページ (<https://www.wakayama-med.ac.jp/>) で確認できます。

(1)大学のホームページから請求する場合

大学のホームページから直接、テレメールによる資料請求ができます。

詳しくは、本学ホームページ (<https://www.wakayama-med.ac.jp/>) をご覧ください。



(2)テレメールで請求する場合

①テレメールのサイトにアクセスしてください。



インターネット

<https://telemail.jp>

バーコードからアクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。



②資料を希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

資料名	料金(予定)	資料請求番号	資料名	料金(予定)	資料請求番号
医学部案内	180円	565870	医学部募集要項・医学部案内	250円	545950
医学部募集要項	250円	585850			

③あとはガイダンスに従ってお届け先を登録してください。

- ※ 資料は通常、発送日のおおむね3～5日後にお届けできます（土曜・日曜・祝日の配達はありません）。お届け先地域や郵便事情によってはお届けに1週間ほど要する場合があります。
- ※ 16時までの受付は当日発送、16時以降の受付は翌日発送となります。ただし、発送開始日前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。
- ※ 随時発送の資料が1週間以上（予約受付の資料は発送開始日から1週間以上）経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。
- ※ 資料の料金は、お届けする資料に同封の支払い方法をご確認の上、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。
- ※ なお、支払時に手数料として、コンビニ支払いとスマホアプリの請求書支払い（LINE Pay、au PAY）は118円、携帯キャリア払い、PayPayとクレジットカード払いは30円が別途必要です。

(3) 本学へ直接請求する方法

郵送により請求する場合は、住所・氏名・郵便番号を明記し、390円分の切手（速達は740円）を貼付した返信用封筒（角型2号、240mm×332mm）を同封の上、封筒の表に「医学部募集要項請求」と朱書きして、下記へ申し込んでください。

(1)・(2)の請求方法についてのお問合せ先

■テレメールカスタマーセンター

Tel.050-8601-0102 (9:30～18:00)

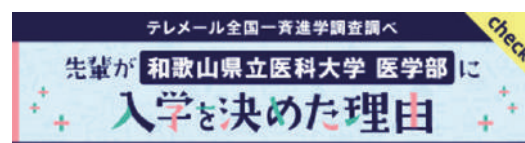
(3)の請求及び請求方法についてのお問合せ先

〒641-8509

和歌山市紀三井寺811-1

和歌山県立医科大学 学生課 入試学務班

Tel.073-441-0702 (学生課)



AccessMap



令和6年
和歌山県立医科大学
医学部案内

和歌山県立医科大学 紀三井寺キャンパス・附属病院

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
Tel:073-447-2300(代表) Tel:073-441-0702(学生課)

和歌山県立医科大学 三葛キャンパス

〒641-0011 和歌山市三葛580番地

和歌山県立医科大学 伏虎キャンパス

〒640-8156 和歌山市七番丁25番1



ホームページ
<https://www.wakayama-med.ac.jp/>

